ルハ、タケキ事ヲモアラハスト云ヘル也、エハヌホドハ、ヒカヘテイロニイダサヌガ、エイテ本心ヲアラハストキ、其ノ事カクレヌヲ云フニコソ、

〔倭訓栞中編十三〕たしむ　嗜をよめり、〇中略俗に好物に祟なしといふ、間情偶奇に、平生愛食之物、卽可養身と見えたり、

〔漢語大和故事二〕千斛万斛モ食一杯　俗字ニ、千石万石、コノ諺ハ千石万石ハ、大名ノ知行ナリ、彼俸祿萬斛ノ大家モ、食スル所ハ、一杯ニハ不過、食物ノ美惡ハアレドモ、其所飽貴賤ヒトツナリト、

〔日本書紀六垂仁〕八十七年二月辛卯、五十瓊敷命謂妹大中姫曰、我老也、不能掌神寶、自今以後、必汝主焉、大中姫辭曰、吾手弱女人也、何能登天神庫耶、神庫此云保玖羅五十瓊敷命曰、神庫雖高、我能爲神庫造梯、豈煩登庫乎、故諺曰、神之神庫隨樹梯之、此其緣也、

〔枕草子六〕はるかなるもの

まさひろはいみじく人にわらはるゝものかな、〇中略里にとのゐ物とりにやるに、男三人まかれといふに、ひとりして取りにまかりなんものをといふに、あやしの男や、一人して二人のものをばいかでもつべきぞ、ひとますがめに二ますはいるやといふを、なでう事と知る人はなけれど、いみじうわらふ、

〔沙石集八〕貧窮追出事

或山寺法師ノ弟子、餘ニ貧シカリケルガ、他國ヘ落ユカント、師ニイトマコヒケレバ、ヰ御房一升入瓶ハイヅクニテモ一升入ゾト云ケル、有漏ノ法ハ繫地各別ニ候ニヤト答ケル、

〔大鏡七太政大臣道長〕あがりてのよにも、かく大臣公卿七八人、二三月のうちにかきはらひうせ給ふは、けうなりしわざなり、それもたゞこの入道殿〇藤原道長の御幸のかみおほし給へるにこそ侍るめれ、〇中略それにまたおとゞ〇道長兄道隆うせさせ給ひにしかば、いかでかはちごみどり子のやう